

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	3472501349		
法人名	医療法人社団 光誠会		
事業所名	グループホーム サンハートホーム		
所在地 (電話番号)	東広島市福富町久芳2694-12		(電話) 082-430-1321
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年4月3日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	6.0 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	<u>新築</u> / 改築
建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (<u>無</u> 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,066 円

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	9 名
要介護1		名	要介護2	5 名
要介護3	2 名		要介護4	2 名
要介護5		名	要支援2	名
年齢	平均 85.3 歳	最低	78 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	本永医院・早志歯科診療所・久芳診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「サンハートホーム」は、東広島市北部の静かな自然に囲まれた道の駅「湖畔の里」の近くに位置し、入居者は起床や食事の時間及びレクリエーションへの参加等は、個々のペースや希望を大切に、入居者がその日その時にしたいことを大事にした支援の下で、ゆったりと暮らしを送られている。また、運営者、管理者の中でも多くの職員が地元出身であり、このことや開所時よりの地域との地道な関係づくりによって、地域の人達の支援と理解が得られており、例えば災害時の避難訓練には近隣の人達が積極的に参加をされたり、畑の作物の差し入れや、ホームの行事への手伝いなどが自然体で行われている。全職員が話し合って作りあげた理念の下、入居者が地域の中で安心して暮らせるよう環境づくりに努めているグループホームであることが伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善点はなかったが、理念を今以上に具体化させるためには入居者一人ひとりに合ったきめ細かい介護目標を立て、達成状況を確認しながら、更なる次の目標に向けて職員間で話し合いながら支援を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員全員でミーティングなどの場において、日々の支援の気づきなどについて話し合い、意見を取りまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、家族代表、地域の民生委員、地域包括支援センターの職員等が参加して定期的開催されており、ホームの役割や活動報告及び関係機関との連携体制などについて話し合われている。今後、さらに地域住民の理解と協力が得られるような交流を図るよう、運営推進会議を通じての働きかけにも取り組まれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との関係も良好のようであり、全入居者の家族の訪問も多く、その際には入居者の日々の暮らしぶりなどについて詳細に報告しているほか、定期的に文書でも情報提供を行っている。また、家族が訪問した際など、職員に気軽に何でも話してもらえよう馴染みの関係づくりに努めている。家族から得られた意見や要望等は、直ちにミーティング等で管理者と職員が話し合っ改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは近隣の関連施設と共に地域の福祉・介護の拠点として、地域で必要とされる活動や役割を積極的に取り組むことにより、地域との関わりが深まり、住民と交流する機会も多い。入居者は地域の集まりにかけ、日常的に馴染みの人と交流を図ったり、家族等が外部者に意見等を表せる機関としてホーム独自の第三者委員会をつくり、このメンバーの中には近隣の住職等に依頼し、協力を得ている。また、近隣の人達に日頃から火災や災害時の協力を呼びかけ、時には共に訓練を行うなどの関係づくりも出来ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で、入居者が安心して楽しく暮らすことが出来るように、また地域貢献を目指すことを謳ったホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの事務所などには何時でも理念が見られるようにを掲示しており、この理念を職員は日々の介護実践の中で職員同士で再確認するなど、管理者と職員は、常に理念を念頭において支援に努めている。		更なる具体的なケアの意見の統一を図るために、例えば理念を掘り下げて職員全員で話し合い、わかりやすい目標を策定し、これをあらゆる機会を捉えて、今以上に取り組んでいかれることが期待されます。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の人たちへの声かけや行き来のきっかけづくりを行っている。隣近所の人達による、入居者の外出時等への見守りや、声かけの協力や、おすそ分けをしたりする間柄も出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は管理者、職員ともに十分理解し、全員で取り組んでいる。前回の評価結果は職員全員に報告し、改善に向け努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの役割や活動報告、関連機関との連携体制などについて話し合いが行われている。今後共、さらに地域住民の理解と協力が得られ、交流が図れるよう会議を通じて働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、事業所側から連絡をしたり、窓口に出向いたりしながら、積極的に相談や情報収集に努めながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は多く、その際に入居者の日々の暮らしぶりについて詳細に報告をしている。また、定期的に請求書と併せて、行事の写真やホーム便りを送付して情報提供している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表の方も出席され、出された意見には前向きに取り組み、運営に反映している。また、家族等が意見・不満等を外部者に安心して表せるホーム独自の第三者委員会を設けている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんど行っておらず、やむを得ず異動や退職がある場合は、職員同士が補いあって、入居者に負担がかからないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で、毎月テーマを決めて勉強会を行っている。また、外部研修への参加については管理者から呼びかけており、希望者が参加できるように配慮されている。また、職員が参加した研修については、他の職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地域の事業所との活動や、研修会、親睦会への参加を通じて交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、本人や家族に事業所を見学してもらい、他の入居者の様子やホームの雰囲気を覚えてもらいながら、安心と納得の利用につなげている。また、入居者は地元の人が多く、馴染みやすい環境となっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で、職員が入居者から教えてもらう場面作り、職員から入居者にありがとうの感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、入居者の尊厳を大切にす言動に注意しており、ともに支えあう関係づくりに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、入居者とのコミュニケーションの中で、その時々思いや希望を把握するようにしている。また、表情や行動からも入居者の意向を把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の関わりの中で、入居者と家族から希望を引き出すように努めており、介護計画にも反映させている。また、職員はミーティングやカンファレンスにおいて、日々の支援の中での気づきや意見などを出し合い、検討して介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、定期的な見直しを行うとともに、入居者の状態変化に応じて随時見直しを行っており、現状に即した介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	入居者が希望する近隣の理美容院や、買い物などは、 職員が同行して支援をおこなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	これまでの一人ひとりの受診状況を把握し、本人・家族 が希望する医療機関・医師に受診できるように支援をし ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	できるだけ早期から話し合いの機会を作り、関係者全 体の方針の統一を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	職員は、入居者一人ひとりのプライドを大事にし、プ ライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に注意して いる。特に排泄や失禁の介助の時などは、他の入居者の 日に注意しながら支援をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間の流れは、入居者のペースや希望に合わ せてゆったりとしており、その日、その時の入居者の希 望を大事にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑から入居者と一緒に採ってきた野菜、鶏舎から持ってきた卵などの食材を使って調理したり、食材の買い出しや、後片付けなども職員とともにしながら、食事を1日の大切な楽しみとし、これを活動のひとつにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日は決まっているが、入居者の希望に応じている。一人ひとりの入浴時間もゆったりとっており、楽しんでいただけるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を把握し、その人に合った役割を見つけ無理強いすることなく出番を多く作って、日々を張り合いがあるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩や、食材の買い出し、ドライブなどに出かける機会を多く設けて、気分転換や五感刺激を得られるようにしている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には日中鍵をかけておらず、いつでも自由に入ることができるようにしているが、入居者の安全を優先してやむを得ず玄関に鍵をかける時は家族の了解のもとでおこなっている。また、ホームの敷地には入居者の自由な暮らしを支援するために、開所時からフェンスや門柱などの設置をされておらず、広々とした開放感があるホームとなっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練を実施しており、また火災訓練や災害対策の講習を受講した後、職員で話し合っってホームの中に水の入ったバケツや、懐中電気等を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は確認し、記録に残している。水分については、おやつや果物やお茶などで補給している。また、入居者一人ひとりの体調や習慣に応じて、トロミをつけたり、刻んだりして、食べ易さを工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりや居間のテーブルに季節の花を飾り、温かく、くっつける雰囲気づくりをしている。今の横には畳の部屋もあり、入居者が自由に寝転んだり、のんびりと過ごせるスペースとなっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者が使い慣れた日用品や身の回りの品物を持ち込んでおり、居心地よく過ごせるよう工夫している。また、居室の窓にはカーテンの代わりに障子を用いており、落ち着いた雰囲気を醸し出している。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム サンハートホーム

評価年月日 H21 年 1 月 20 日

記入年月日 H21 年 1 月 28 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 松浦 フミ子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	ホーム独自の理念を作り、利用者一人一人の個別ケアに取り組んでいます。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を常に意識して、日々心がけています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム内の行事を地域の方々に公表し、地域の方々にも参加していただけるようにしています。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	行事やボランティアへの参加、避難訓練への参加、近隣の方々へ、ホームで採れた鶏の卵の配布。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域主催の敬老会への出席、アクアフェスタ等の地域行事に参加しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			認知症の方が地域で暮らしていけるように支援する。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	年1回の外部評価を受けたあとに、評価を見直し、取り組めていなかった事への具体策を立て、取り組んでいます。月1回の職員会議で総合的に自分たちの介護サービスの向上を自覚し見直しています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議で出た要望の実現化。 例：サンハート便りを早めに発送して欲しいと言われて、5日に送付していたのを、3日にしました。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ケア会議等への出席に努めています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			学ぶ機会を、来年度中には入れたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に繋がらないように利用者の対応等、常に話し合っています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	出来るだけ直接お会いし、実施しています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	毎日の申し送り等で、管理者を中心に連絡、解決を速やかに行っています。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来所された時、報告するようにしています。必要な時は、電話等で常にしています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	どこのご家族も平均月1回の面会がある為、管理者及び職員はコミュニケーションをとり、意見を聞くように努め、また、交代で2月に1回の頻度で、外部者とも話をさせていただく機会を設けております。第3者委員会も設置し公表しております。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回研修会を開き、聞く機会を設けております。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	特変などは管理者を中心に、職員への連絡が常にとれる状態で対応しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>介護職員は非常勤者も含め、変化がほとんどありません。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の情報提供や月1回施設内研修を、また、施設外研修も積極的に参加しています。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>行事、ボランティア受け入れ時の招待、一緒に勉強会等の機会を設けております。相互訪問や合同食事で交流を持っています。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>利用者様から離れる事の出来る、休憩室や、スタッフによるお茶の時間や、頻度は多くありませんが食事を設けております。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>運営者である理事長は、週2～3回訪問し、実際の勤務状態を見ております。そして、職員ともコミュニケーションをとるように、取り組んでおります。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>一人一人と、ゆっくり話せる時間をとり、職員が個々に得た情報を共有し、対策を話し合い、対処するようにしています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	担当のケアマネと密に連絡をとったり、必要に応じ、電話や、直接会う等の機会を作っております。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	職員同士でも話し合い、問題点を探り、速やかに対応しています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族に相談し、見学に来ていただく等しています。入所初日は、一緒に来られた御家族とも食事をともにしています。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションをとるよう、常に会話や、スキンシップを通しています。ペットメイキングを一緒にしたり、就寝前など、ゆっくり1対1で話を聞いたりして安心していただけるようにしています。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	不安感を抱かれない範囲ですしています。持ち物や、お話の事実確認をしていただいたり、協力関係にあります。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人様の心身の状況に合わせ、必要と判断した時は、御家族に相談し、協力を得られております。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用者様のご自宅付近の訪問等をしております。 開放的に来客を受け入れております。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>毎日のお食事の時の、座る位置などの配慮をしております。常に大事に至らないように、早めに職員が間に入り調整しています。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>こちらからは、積極的にはしておりませんが、折に触れ、訪ねてみたりしております。訪ねて来られる事もあります。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>個別ケアに努めています。起床の時間や食事の好みや形状を変えております。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>御本人様や、御家族、以前の担当のケアマネさんから聴く等しています。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>毎日の記録等を通してしています。各職員の気付き等も、1日2回の申し送りの際に行い、ケアに活かしています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回の職員全員が集まったのケア会議で行っております。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	体調、介護度の変化に応じてしています。3ヶ月に1回は介護計画を見直しています。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入浴や更衣など、スムーズに出来た事、出来なかった事や、体調の変化などを記録し、申し送り、情報を共有し、必要に応じ介護計画をたてています。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の保育所や小学校としています。月1回以上のボランティアの受け入れをしています。2ヶ月に1回運営推進会議で民生委員さんに参加していただき、ご意見をもらっております。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	近隣の特養のケアマネさんと相談したり、ボランティアや行事への参加、招待を通じて、交流の機会を設けております。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	ショートステイを始め、地域包括支援センターとの連携をとっております。運営推進会議への参加を通し、意見等を活かしています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診時相談し、場合により往診をしていただいております。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	直接お会いし指示を仰いだり、電話で相談をしたり、良い関係を築けております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	電話等でアドバイスを受れたり、往診をしていただいております。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院されたときは、情報交換等しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>密にご家族と電話等で連絡を取り、かかりつけ医にも受診や往診をしていただき、必要に応じ、次の受け入れの医療機関や施設等の手配をしています。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>状態よっての往診や、見極め、指示を医師にお願いし、入院や転所の手続き等、ご家族も含めたチームでしています。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>次の場所が決定するまで、ご家族やソーシャルワーカーやケアマネ等で、情報交換を電話や直接会うなどし、しています。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職場や運営者同士で注意し合い、良くない所を指摘し、改善しています。個人の契約書類、記録等は鍵のかかる保管庫に保管しています。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>コミュニケーション(会話等)を通じ、行い、誘導等も理由を話した上で、ご自分から動いていただけるようにしています。常に、納得や了解を得るようにし、支援しています。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>安全で、健康で、快適で、共同生活の和を乱さない範囲で支援しています。強制にならないようしています。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族とも相談してしています。了解のもとで、地域の近隣のお店を利用しています。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	清潔に心がけ、負担にならない範囲でしています。食事は常にスタッフも一緒にとり、誤飲などの事故防止に注意し、明るく楽しい食事に心がけ、個々の好みも献立に取り入れ、配膳やかたづけも、その時々状態にあわせてしています。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	共同生活が営める範囲内で、全体的に取り入れています。おはぎなど、皆が好まれる物は手作りです。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の状態に合わせて、紙パンツから布パンツに戻したり、時間やしぐさ(サイン)を見て、トイレ誘導等をしています。排泄行為はトイレです。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	安全と快適を優先してしています。夕食後の入浴は職員が2名になるのでしていません。現在、希望もありません。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夕食後はそれぞれの方に合わせ、休みたい方、会話を楽しみたい方等に合わせ支援しています。睡眠不足にならないようにも支援しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	歌を歌える機会や、ドライブ等の外出など、体調や天候をみながら、多くとる様にしています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	トラブルの起きない範囲で、ご家族とも相談して支援しています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候、体調等を見て、安全を優先してドライブや散歩等を行っています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	無理のない範囲で、お花見やお祭り、イベントへの参加。年1回の日帰りでの遠出(宮島や徳山動物園や島根の水族館など)に出かけています。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば、状況を判断し、いつでも電話できるようにしています。手紙の投函も状況を判断した上でしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	常に声かけし、訪問者は健康上の理由(インフルエンザの流行等)がない限り、自由に受け入れています。宿泊も出来ます。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者の安全を優先した上で、拘束をしないケアに日々取り組んでおります。居室に鍵をかけていませんし、身体拘束は全くありません。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	安全を優先しての範囲内です。その日の状況に合わせ、玄関の鍵をかけたり、かけなかったりしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	その日の勤務者全員で常に、9名の入居者様の所在をそと、確認しながら、様子についても、情報交換して安全に配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	1人1人の状態に合わせ、居室に置けるものを注意し、はずしたり、戻したり、加えたり、場合によっては、位置や柔らかい布を巻くなどして、危険を防ぐ取り組みをしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修等を通じ学び、一人一人の状態を常に話し合い、その状態に合わせ、職員の配置や声かけをして事故防止に取り組んでいます。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	全職員が年1回は必ずしています。消防署で受講もしています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練をし、近所の方々にも参加していただいています。簡単なマニュアルも作成し、ご近所に協力要請も兼ね、配布しています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族とは必要に応じ、了解、納得を得られるよう、対策を話し合っております。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	顔色、食欲の変化、排泄の際の気付き等を、速やかに、職員間で共有し、管理者を中心に、御家族への相談や、受診等対応しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変化等、申し送り、記録し、情報の共有と共に、確認をしています。		薬の目的や副作用についての理解を深めたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取量の記録、排便、排尿の回数等に注意しています。個々の状態に合わせて、対応しています。(便秘ぎみの方には起床時に水分補給をする等)		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人一人の方の状態に合わせて、口腔ケアの介助、声かけ、見守りを、毎食後し、チェックシートに記入しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	朝、昼、夕の3食と、10時と3時のおやつの際の水分摂取量を記録し、残された物や状況に応じ、1日を総合的に把握し、1日1500ccを目安に負担にならない範囲で、形態も工夫し支援しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	マニュアルがあり、消毒や手洗い、マスク等状況に合わせて実行しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	次亜塩素酸やエタノールでの消毒や、調理道具の清潔に努め、食品の賞味期限等にも注意し、使用と管理に努めています。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	敷地への入口は常に開放しています。門や柵も無く、駐車場も近所の方や、来客が自由にとめられるように開放しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の風物や行事ごと等の飾り付けや、生け花を飾っています。こたつや、お仏壇も自由に利用できるようにあります。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	サンルームや、和室等を利用されています。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族の協力を得て、以前使われていた、箆笥や布団、衣類や写真等を居室において暮らしておられます。仏壇も置いておられる方もあります。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各室温度計を設置し、常に室温、換気に配慮しています。加湿器も設置しております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内全てバリアフリー構造で、手摺も随所に設置しています。自力での歩行、移動が出来るようにしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	特に危険な場合を除いて、おおらかに見守りをし、居室への順路の張り紙や、入り口の表札をかけています。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に腰掛けられる椅子を置いています。畑や鳥小屋があり、鶏を飼っています。庭や畑の草取りや、鶏へ餌をあげたり、卵を採ってきたりされてます。		